

## 禪野委員長挨拶(要旨)

新型コロナウイルスの感染拡大が、今だ、猛威を振るう中、感染防止に努めながら、安全・安定輸送の遂行に日夜、ご精励いただいていること、現下の経営危機を乗り越えるため、コスト削減をはじめ様々な施策にも協力し、JR西労組運動を職場からお支えいただき、感謝申し上げます。

新型コロナウイルスにより、私たちの働き方、生活様式が一変して2年が経過し3年目を迎えています。

この厳しい現状を乗り越えるために、労使で、会社の存続と、「雇用」と「生活」を守るために共に頑張ってきたと思います。年明け以降、JR西日本のご利用も減少傾向にあります。3回目接種も進んでおり、治療薬も普及する見通しであることから、明るい未来に向け、皆さんと共に運動を進めて行くべく、地方委員会の開催にあたり、主要課題4点について、問題提起を申し上げたいと思います。

### ①安全の確立について

福知山線列車事故から来月25日で17年目となります。この間の労使の取り組みにより、確実に安全性や安全に対する意識は高まっているのは間違いありません。今年は、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の最終年度となります。目標に掲げた指標の多くは達成をする見通しですが、昨年は、協力社員の交通事故による死亡労災や、地方本部管内においても一歩間違えば重大な事故につながる労働災害も昨年より増加傾向で発生するなど撲滅には至っておりません。私たちの働き方を会社に一方的に任せるのではなく、職場の実態を一番理解している私たちの立場から会社に提言していくことで、より実効性のある次期計画の策定ができるものだと考えています。是非、「安全お守り手帳」を活用しながら積極的な分会からの取り組みを要請しておきたいと思えます。

また、福知山線事故以降に報告文化の醸成を推進することを目的に、事故区分の見直しにあわせて、2016年に鉄道運行上に発生したヒューマンエラーについては、非懲戒を導入してマイナス評価の対象外としてきましたが、これまで対象外であった時間や場所の錯誤や失念によるヒューマンエラーについても、就労意思があれば対象とすることが、JR西労組も参加する労使安全会議専門委員会で議論され、見直しされることになりました。今後、より報告する文化が醸成され、安全性向上に繋がっていくことは一定の理解をしますが、是非、これまで通り、それぞれの立場で職責の重みを自覚しながら業務に精励いただくことをお願いしたいと思います。様々な課題も出てくるのが想定もされますが、何かあれば分会から声を上げていただきたいと思います。

### ②2022春季生活闘争について

賃金実態調査への集約をはじめ、この間の取り組みに感謝します。今春闘についても昨年同様、コロナ禍の中での大変厳しい春闘の交渉になっています。第3四半期決算については、通期業績予想を据え置かれる厳しい決算でありましたが、10月～12月の四半期だけを見れば、年末年始輸送の回復やコスト削減・グループ外出向などの努力のおかげで、2年ぶりの黒字を達成することができました。現在は、再び、ご利用が減少していますが、若い世代の離職に歯止めをかけ、働きかきを向上するには、「人への投資」「賃金の底上げ」が必要であり、JR連合方針に基づき、「年度初における基準昇給の実施」「ベースアップ1,000円」「年間臨給4.0」の獲得に向け、徹布に込められた想いを、本委員会において全体で意思統一し、中央闘争委員会の背中を押していきたいと思えます。

引き続き、支部・分会から春闘の気運を高める取り組みも要請しておきたいと思えます。

### ③組織について

新年の挨拶でも申し上げましたが、厳しい時こそ対話を大切に労働組合の存在感を示す1年にしていきたいと思えます。長引くコロナ禍で、組合活動にも制限がある中、賞与の減額など不安もある中で、分会・支部からJR西労組運動を献身的に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。地方本部の組織率は、約94%となりましたが、一方で、大会以降、各種共済の脱退や、私たちの仲間が離れていくという事象も発生しています。

コロナ禍で、生活が苦しくなっていることは認識しつつ、労働組合があるからこそ、1人ではなく、みんなで助け合い・支え合いながら運動ができるのがJR西労組の強みであり、この間の労使の協議で、多くの制度や賃金などの成果を導き出すこともできています。特にコロナ禍の中では、「雇調金の特例措置の度重なる延長」など、私たちの働きかけで、会社の存続に大きな影響をもたらした成果として実現させることもできました。

今後も厳しい経営環境が想定される中、ダイヤ改正では、昼間時間帯の減便、10月には支社組織の再編など、私たちの働き方も大きく変化することが想定されます。

このような厳しい時こそ組合員に寄り添い対話を大切に、きめ細やかな対応でJR西労組の存在感を発揮し地方本部が先頭に立ち、運動を進めていくこととします。ぜひ、仕事と家庭と組合役員の両立をしながら奮闘している皆さんと共に、引き続き組織の充実・強化に向け歩みを進めていきたいと思えます。

### ④政策・政治課題について

JR連合が「持続可能な地域交通をつくる政策提言」について、マスコミ各社へ発信をしました。人口減少やコロナ禍が拍車をかけ、これまで内部補助で地方路線を維持してきましたが、もはや限界にきている現状です。地方ローカル線の課題については、大阪地本エリアでも、関西線(加茂～亀山間)が1日2000人未満の対象線区となっており、今後、どのような形で鉄道を存続させていくのかなど、あらゆる方面から議論を深めていかなければなりません。

これまでも、各省庁や国、自治体に対して、JR連合からの働きかけで要請を行ってきていますが、今後も、JR連合国会議員懇やJR西労組議員団会議の田尻奈良県議会議員との連携で、政策課題の解決・実現に向け連携を深めていくことが重要で、そのためには、政治の力が必要であることは言うまでもありません。

7月に実施される参議院選挙では、全国比例候補である、UAゼンセン出身の川合孝典議員、滋賀県知事選挙では、三日月知事の3期目の当選に向けた支援を要請します。

JR西労組の政治方針は特定の政党を支持するのではなく、我々の信頼できる政治家個人と連携して支援していくことであります。私たちの仕事と生活、政治は密接に関係しており交通政策をすすめる会への加入促進をはじめ、政治への関心と理解・参加を深める運動を継続していくこととします。

以上、本委員会に課せられた主要課題について申し上げます。後ほど提起する方針について活発な討議をいただくことをお願いし、執行部を代表してのご挨拶とします。



天王寺支部春季生活闘争決起集会



奈良支部春季生活闘争決起集会



▲大阪支部  
春季生活闘争決起集会



▶大阪支部  
第1回分会代表者会議  
(組織対策会議)で  
各分会組織状況報告を  
進める大阪支部坪本副執行委員長

## 各支部 分会代表者会議や 2022年 春闘総決起集会開催

大阪地方本部の各支部は、新型コロナウイルス感染症第6波のまん延防止等重点措置が発出されている中ではあったものの、開催方法を工夫し、3月5日(土)は天王寺支部と奈良支部が、3月12日(土)には北大阪支部と大阪支部が開催した。安全お守り手帳の学習会や組織対策会議を実施した支部もあり、各支部で熱い有意義な会議・集会となった。各支部の決起集会では、2



北大阪支部春闘総決起集会



北大阪支部分会代表者会議で  
安全お守り手帳学習会の講師を務めた  
大阪地本高橋安全対策部長(中央)

022春季生活闘争の要求項目獲得に向け、各地とも参加人数は縮小していたものの、そ

れを感じさせない熱い熱い思いを中央闘争委員会に向け届けた。

## 川原書記長 総括答弁(要旨)

本委員会は、新型コロナウイルス感染症により、大阪府も蔓延防止等重点措置の中ではありますが、昨年の委員会同様に、出席範囲を縮小し、時間短縮にて開催させていただきました。委員の皆さんも不安もあると思いますが、ご協力いただいたことに感謝申し上げます。

本日は7名の委員から16項目にわたり地方本部方針に対して補強いただいた。

ほぼ、すべての委員から、安全の取り組み、業務課題、2022春闘、組織や政治課題について触れたいと思ったと思っている。

時間の都合もあるので、発言いただいた項目について、簡潔に総括していきたい。

### ■安全について

方針提起でも申し上げましたが、福知山の事故から今年で17年となります。安全の取り組みについては、日々の皆さんの取り組みにより安全性は確実に高まっていますと感じています。ただ、この1年では、協力会社において車による死亡労災は発生し、また道路凍結によりタイヤがスリップし、一歩間違えれば、橋梁から転落というような事象もあった。退避不良をはじめ、危険な事象が発生していることを考えると、職場にあるリスクに対して、それを確実に個人で気付きを感じ、つぶしていくことが大事である。

また、我々はチームで働いている。日々の業務の中で、培った経験と技術を生かしてこれからも安全に対して高い意識を持っていただくこともお願いしておきたい。

そのためにも安全お守り手帳を活用し、職場の安全、お客さまの安全、仲間や自身の安全を守っていただきたい。そしてこのお守り手帳はみなさんの気づきでさらなるアップデートができるので、安全に終わりがいいことを認識し、安全の取り組みを進めていただきたい。

### ■22春闘について

本日も多くの意見を頂いた。中央闘争委員会も、組合員の負託に応えられるよう交渉に臨んでいる。現時点、昨年と同様、定期昇給をはじめ、お伝えできるような回答はないが、人財への投資こそがこの会社を守り続ける原動力となると感じている。私たちの生活を守るため、要求実現に向け最後の最後まで、徹布の思いを中央闘争委員会に届けていきたい。

### ■働き方改革について

方針提起でもふれましたが、これからは自動運転や駅での働き方など、大きく様変わりしていくことが想定される。現に今、自然言語処理など音声アシストや自動翻訳などが世に普及し、外国語を話さなくても、あるいは障害のある方でも普通に会話ができる技術革新ができていたり、自動運転車もまもなく実現に向

けての取り組みがなされている。10年前をさかのぼると、モバイルタブレットが開発され、クラウドコンピュータがIT企業などで普及を始めた頃だと思うが、今現在では誰も当たり前のように使っている。10年先を見据えると想像がつかないほど、技術革新が進んでいるかと思うが、社会の動きに乗り遅れないよう、この機会をチャンスと捉え、検証を進めてまいりたい。組織構造改革についても社員の生活や働き方に大きく影響を与えるものだと思う。モチベーションが低下しないように議論を進めていきたい。

### ■組織の充実・強化について

残念ながら、昨年に引き続きJR西労組を去っていく事象が発生した。またコロナ禍での不平・不満を相談にきたり、あるいは労働組合の不甲斐なさに叱責してくる組合員もいる。

世話役活動の原点は、分会・職場にある。組合の必要性を組合員に理解・浸透させていくことが大切である。ぜひ、引き続きの取り組みを要請しておきたい。

まもなく、新入社員が今年も入社してくる。今年度も十分な教育や歓迎会なども開催できていなかったこともあり、分会なども相当苦労されたと思っている。今年度は採用数は少なく同じ職場で働く同期がほとんど皆無だとは思いますが、しっかりと先輩の皆さんが寄り添っていただき、JR西労組の存在意義や組合の必要性を理解いただけるよう分会からも取り組みをお願いする。地方本部も皆さんと一緒に組織強化につなげていきたい。

### ■最後に、政治・政策について

参議院選挙については、特にJR連合が実施し取り組んだ緊急署名行動や各種要請行動によって雇調金が延長されるなど大きな取り組みになった。私たちの政策要求の実現に向け、国に対して働きかけをいただいているJR連合国会議員懇をはじめ我々の推薦議員の必勝に向け取り組みを進めていきたい。

政治活動においては、会社の労使交渉で解決できない税制や法律など、私たちの暮らしをよくするために、私たちの代弁者である議員を国会に送りださないといけない。くわえて地方議員がしっかりと票を取りまとめることが、この大阪の地については如何に重要なのかを昨年の衆議院選挙において再認識をした。組合員へ地方政治の浸透や政策への理解を深める取り組みも再度お願いしたい。

結びに、まだまだ苦難な期間が続くかと思いますが、皆さんの思いを胸に禪野委員長を筆頭に、2022春闘勝利に向けて、また参議院選挙をはじめ推薦候補者必勝に向けて大阪地本総団結していくことを申し上げ総括答弁とします。

共に頑張りましょう!